

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1870500137		
法人名	社会福祉法人 光明寺福祉会		
事業所名	グループホームけいあい		
所在地	大野市牛ヶ原154-1-1		
自己評価作成日	令和 5 年 11 月 6 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/18/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福井県社会福祉協議会		
所在地	福井県福井市光陽2丁目3番22号		
訪問調査日	令和 5 年11 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「やわらかいところ」という理念を具体的に「五感の刺激を大切に。生きがいと自立。敬愛にあふれた家づくり、地域に開かれたホーム」をあげ、今後も日々努力していきたい。自然に囲まれた環境の中、家庭菜園や花壇づくりを行っている。屋内とベランダでメダカを飼育し、癒しの空間を作っている。近くの山で採れたタケノコやミズブキ、フキノトウなどの季節の野菜を食卓に取り入れ、季節感を感じて頂いている。採れた野菜の修理をしていただくなど、昔やってきたことを回想し職員、利用者同士の会話を楽しみながら作っている。お誕生日や伝統行事等、(彼岸、半夏生鯖、土用の丑の日、報恩講、米寿、餅つき、初釜等の行事で楽しくすごれるよう、力を入れている。コロナ禍に毎日の日課になった合唱で「故郷、きらきら星」を鈴とトライアングルを演奏しながらうたえるようになり、いつか外部で披露できたらと目標を持つようになりました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は大野市西部で芝桜の美しい乾側地区に位置し、法人が運営する地域密着型介護老人福祉施設、介護老人福祉施設、通所介護等を併設した建物の2階にある。山裾の自然豊かな環境で、裏山で取れた山菜を料理に取り入れている。事業所は開所当時から理念と4つの基本方針を基に、プライバシーの尊厳に配慮した対応を職員一人一人が心掛けている。また認知症が重度化しないよう、学習療法、作業療法、音楽療法を取り入れ、健康状態維持のため手作りの食事、おやつ作りにこだわっている。利用者は毎食笑顔で完食し、おやつ作りも楽しみにしている。今年から電子カルテシステムを導入し、職員は効率よく記録することが可能となった。職員が変われば利用者も変わるとの思いで、適切な介護に向け日々研鑽している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「やわらかいところ」という理念を具体化した基本理念をホールに掲示し、常に意識し日々努力している。適切な介護が出来ているか毎日振り返る様になっている。勉強会でも振り返り再確認する。	事業所の理念は契約時に家族に説明し、基本理念とともに施設内に掲示している。個人目標は毎年3月の勉強会で振り返り、職員間で話し合い、再設定している。	事業所の目標を決め、職員の個人目標を掲示したり、「けいあいだより」に掲載するなどして事業所の理念の理解と実践につながることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	母体である光明寺福祉会の各施設との交流がコロナ禍がすぎ、再開となり、色んな情報を共有し交流を継続していきたい。	法人で自治会に加入し、地域の公民館行事、祭りに参加している。毎月発行している広報誌の配布、インスタグラム配信を行うなど、今後は講座の開催で交流を図ることを検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で中止になっていた、地域の行事、研修等、積極的に参加していきたい。介護福祉士を目指す実習生受け入れ、介護相談員の受け入れを再開している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議で、現状報告し意見交換し、日頃のサービス向上に生かせる様に努めている。	偶数月の夜7時から定期的に開催し、活動内容、現状報告、事故報告を行い、家族からの意見を聞き、運営に反映している。	会議録に参加していない家族に配布するなどして、運営への理解とサービスの向上につなげることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の職員の方に運営推進会議に出席していただいているアドバイスを得ている。同法人の2つのグループホームの管理者にが参加し意見交換、情報を共有し、交流している。外出行事も以前のように合同で計画し再開していきたい。	市職員とは運営推進会議や、メールで日頃から相談できる関係にある。困難事例があれば地域包括支援センターに相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会の課題にし、知識を付け身体拘束にならないよう心掛け適切な介護に取り組んでいる。問題点が出た場合には注意点を話し合い、解決策を出し帝王している。	職員は利用者との関わりで気になった点を毎月勉強会で話し合い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。2階事業所入り口、エレベーターは施錠していない。夜間1階入り口は安全のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員間の連携や、研修参加等、意識向上を高め虐待の無いように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会の参加やマニュアルを基に勉強会で取り上げている。また、入所時に必要性を確認している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族の要望、意見を聞き、丁寧な説明を心掛けている。解約時も家族の意向を主に、退所後も家族との繋がりを持つことができている。また、法改正時などは、事前にお知らせして理解納得の上、署名を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時(受診時)担当者会議時に日頃の様子を伝え、家族の意見要望を聞き、出来る事は反映するようにしている。LINEを取り入れ、写真を送信、ビデオ通話等を活用している。	毎月、家族に電話、LINEで連絡した時や受診で来所した時に意見、要望を聞いて運営に活かしている。現在中止している家族会の再開など、家族が意見を述べやすい環境づくりを進めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者には意見提案し、アドバイスを得ている。職員間では勉強家で意見交換し情報等出し合い反映させている。	ミーティングや申し送りノートの利用などで職員からの意見や提案については話し合い、運営に反映している。管理者は職員と月1回面談しており、意見を言いやすい雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働き方改革を念頭に明るく働きやすい職場、公休の希望など応えられるよう、公平に取得できるよう取り組んでいる。問題点が出た時には代表者に相談し、解決している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の聞き取りをし、実践ケアの力量を把握し、勤務時間を調整し研修会に参加している。その都度、代表者に報告している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福井県グループホーム協会に入会しており、コロナ禍以前は施設見学会に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面接をし顔合わせをして、十分に本人に当ホームでの過ごし方等解りやすく話をさせて頂いている。環境が変わり不安な気持ちでおられるので本人の思いに傾聴し安心して来ていただけるよう、努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	アセスメント、担当者会議から本人、家族の情報をしっかり把握し、傾聴して出来る範囲で対応していくことを伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や家族の状態を考慮し、他施設の紹介を行うこともある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日が不安である方ばかりなので、安心できる居場所(家)自分の家づくりに努め、不安を緩和させていけるよう心掛けている。役割を持っていただき張り合いを感じていただくよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診時には家族に行き、面会、外出など負担にならない様、行っている。遠方の家族の方にはLINEビデオ通話や日頃の写真などを送っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍で中止していた、面会、家族との外出、外泊を再開している。	外泊、家族旅行で家族が対応に困らないよう、利用者の状況や対応策を文書で渡し関係が途切れないよう支援している。毎年年賀状を作成し、馴染みの関係、交流継続を図っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良くない方同士が近くにならないように席順を配慮している。また、職員が間に入り、レクや行事、会話の援助をし、トラブルにならないように気を付けている。日中は居室に籠らないよう促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見かけしたときは、声掛けし様子を聞くようにしている。退所後もLINEが繋がっている家族の方に交流している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いや暮らし方の希望、意向など、これまでの生き方からヒントを得られるので日常の会話から引き出し、実践に繋げ、安心して生活出来るようにつとめている。	食事、おやつ後にソファーでくつろいでいる時間を利用し、利用者が思い、意見を出しやすいように工夫している。日常会話、何気ない仕草から意向を把握し勉強会で共有し、処遇を検討して支援につなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までどの様なくらしをしてきたのか、その情報から引き出し、生活の中に取り入れ、安心して生活できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の状態観察、行動を把握し、出来る事等、職員間で情報共有し、出来る事を一緒に行ったり、見守りをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常日頃の職員間のコミュニケーション、毎月の勉強会、1回/6の担当者会議で意見交換を行い、計画に反映出来る様に努力している。	介護計画策定、見直し時は必ず家族に意見、要望を聞いている。3か月に1回のモニタリング、6か月に1回の担当者会議で計画が現状に応じた支援になっているか検討し、見直しを適切に行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日のカルテやケアチェック表、申し送りノート活用し、職員で共有し見直し、計画、実践に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	職員のアイデア、意見交換し一人一人満足のいく支援に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加、介護相談員、実習生のうけいれを再開している。職員以外の外部の方の関わりで新鮮な刺激を得られている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ医を継続し受診出来る様、支援している。家族による定期受診してもらっている。	定期受診は基本家族が同行している。緊急時も家族に連絡するので、職員が受診同行することはない。認知症専門医の往診が月1回ある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の訪問看護師に相談しアドバイスを受けながら、対応。体調に変化があったときには、すぐに報告し、早期対応、早期受診に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を早急に行い、病院からも状態を聞くようにしている。退院調整協力やカンファレンス参加をしスムーズに退院出来る様に努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に必ず家族の方に説明している。その時の状態により、又その都度家族、主治医、訪問看護師と話し合いを持ち、支援していくように考えていきたい。	要介護度が上がった時点で家族に現状を説明、医師と相談し、家族希望があれば特別養護老人ホームの申込みを支援している。看取りを行ったことはない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの確認、研修会参加、勉強会、看護師からの指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練、防災訓練をおこなっている。災害が多くなってきている近年、訓練回数を増やし、毎日するよう心掛けている。	年4回避難訓練を実施し、職員は避難マニュアルにそって、スムーズに避難できるよう日頃から心掛けている。居室の壁にバスタオルで手作りの防災頭巾を設置している。	災害時の避難誘導について、地域住民と話しあう機会を持ち、防災頭巾の活用や非常食の試食など実践的な訓練に繋げることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人一人がその人の生きてきた過程や大事にしている事等把握して会話や傾聴を行っている。人格の尊重、誇りやプライバシーを意識して失礼の無い様心掛けている。	利用者の生活歴を尊重し、家庭的な接し方になる様に言葉かけと態度を意識して対応している。お互い気づいたことは勉強会で共有し、適切な支援が提供できるよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に本人の思いに傾聴し、自己決定できるようにしている。出来る限りそえられるよう、はたらきかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の体調や気分を考え、意向に沿うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分の好みの洋服だったり、髪型だったりと希望を聞き、買い物に出掛け、洋服を選んでいたり、馴染みの美容室でカットしたり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日、毎食後の片づけなどをして頂いている。調理等は、職員の見守りの中、下ごしらえ等をお手伝いして頂いている。おやつも毎食事もほぼ手作りである。	メニューは利用者と相談しながら決めている。旬の新鮮な食材を使い季節感を取り入れた手づくりの食事は利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量、形態を把握し、支援している。栄養の偏りが無い様色んな食材を使っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声替え、誘導している。義歯、残歯の状態確認し変化に気を付けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを把握し、トイレ誘導して支援している。パターン把握し、パット使用料を減らす努力をしている。	トイレで排泄することを基本として支援している。電子カルテの導入により、排泄パターンを正確に把握でき、紙パンツから布パンツに移行している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質を多く摂れるような献立や水分をしっかり摂取できるようにしている。毎日、牛乳、ヨーグルトを食べて頂いている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴をしている。入りたくない方には無理強いしないようにしている。変わり湯などで楽しんで頂いています。	月、水、金曜日の午後から入浴できる。入浴できない利用者は部分浴で対応している。柚子、ミカン、菖蒲などの入ったお風呂も楽しむことができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	使い慣れた寝具を持ってきて頂いている。質の良い睡眠が出来る様、日中の過ごし方に工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師により、服薬情報をさくせいしてもらい、常に目のつくところにおき、皆が確認できるようにしている。勉強会で薬用法など確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人にし好みや、家でしていたことを聞き、少しでも気分転換ができるように工夫している。また、きせつの行事、誕生会など全員参加でにぎやかに楽しく過ごすようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出、施設からの外出行事を行っている。春にはお花見、夏にはベランダで流しそうめん、秋には紅葉狩りと季節を感じて頂き、楽しくすごして頂いている。	希望があれば外出できるよう体制を整え、全員で外出を楽しめる工夫や、個別に近所を散歩するなどの支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金は本人は持つことはない。管理も家族がしていると認識されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入所時に電話取次の意向を聞いている。タブレットでビデオ通話をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物を置いたり、水槽、メダカの鉢でメダカを飼育している。壁などの装飾など、一緒に作成して季節感をだしている。	南向きの陽当りの良い共用空間には観葉植物や大型テレビやゆったりくつろげるソファを設置している。クリスマスツリーや雪だるまなどの壁面の飾りが季節感を出している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広々といくつものソファを置き、くつろいでおられる。会話や笑い声などがみられる。ベランダでは花や睡蓮鉢でメダカや睡蓮を栽培、プランターで野菜なども作って食卓につかっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや小物、家族の写真、ご自分で描かれた絵などを飾り、居心地よく過ごされている。	備え付けの家具と、ベッドの他にテレビ、整理筆筒、衣装ケースなどを自宅から持ち込むことができる。個人の絵画、写真など飾っている。大きな半円形の出窓からは裏山、田園風景が望むことができる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各教室の入り口に名札を貼ったり、トイレの場所の目印、洗面所の各自の歯ブラシ、コップ等一目でわかる様に工夫し、声掛け、見守りを行っている。		